

今週（1月20日から1月24日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週の無担保コールO/N物は、引き続きビッドサイドの調達ニーズが堅調にみられる展開が続いた。出会いレートが概ね0.227%近辺で推移するなか、一部で試し取りとみられる動きもみられた事から、23日(木)までの加重平均レートは、0.227～0.228%での推移となった。24日(金)は、金融政策決定会合の結果公表を控え、一部で利上げに対する警戒感もみられたものの、適用日が翌営業日以降になると想定する先が多かった事から、出会いレートの水準に大きな変化は見られなかった。

ターム物に関しては、1W程度のショートタームで0.28～0.30%程度、ロングタームについては金融政策決定会合を控えていた事もあり、オファー・ビッドともに閑散とした状況となった。

日銀当座預金残高は、週初519兆円程度から始まった。その後は、財政資金の支払いが多くみられた事から、全般的に増加傾向となり523兆円程度での着地見込みとなった。

また、23日(木)・24日(金)に開催された、金融政策決定会合では、政策金利を0.5%に引き上げることが決定された。加えて、貸出増加支援オペの終了予定も公表された。

●レボ市場

今週のGC O/N物は、概ね0.045～0.42%程度の水準で推移した。
SC個別銘柄では、カレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、全ゾーンが横這い圏で推移した。
23日(木)に実施された3M物入札は、無難な結果となり、その後のセカンダリーマーケットでは、堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、電気・ガス、建設、小売業など複数の業態が大型発行を実施した。
市場残高は、有利子負債圧縮の影響により減少した12月末から2兆円程度回復しており、26兆円前後での推移となった。
発行レートは、追加利上げへの警戒感から上昇がみられるなか、銘柄により投資家の運用目線にばらつきが見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（％）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・％）	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・％)	日銀当座預金残高 （億円）
1/20（月）	38,902.50	1.190	156.05	0.227	0.244	5,189,300
1/21（火）	39,027.98	1.185	156.05	0.228	0.238	5,200,700
1/22（水）	39,646.25	1.195	155.50	0.228	0.222	5,198,500
1/23（水）	39,958.87	1.205	156.40	0.227	0.233	5,232,800
1/24（金）	39,931.98	1.230	156.24	0.227	0.399	5,234,300

来週（1月27日から1月31日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
1/27 (月)	11月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)	流動性供給 6,500億円 1/28発行			12月の米新築一戸建て販売件数
1/28 (火)	12月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)				米FOMC(1日目) 12月の米耐久財新規受注 11月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数
1/29 (水)	金融政策決定会合議事要旨(12月18・19日分 8:50)	GX5Y 3,500億円 1/30発行	交付税借入 12,500億円 2/7借入		米FOMC(2日目) 1月の米CB消費者信頼感指数
1/30 (木)	氷見野副総裁 一橋大学政策フォーラムでの講演				ECB定例理事会 10-12月期の米GDP速報値 10-12月期のユーロ圏GDP1次速報
1/31 (金)	1月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 12月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 12月の一般職業紹介状況(有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 12月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 12月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 12月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)	TB3M 45,000億円 2/3発行	2Y 26,000億円 2/3発行		12月の米個人所得・消費支出(PCE) 1月のシカゴPM景況感指数

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
1/27 (月) 日銀予想	800	7,700	8,500	国債補完	5,200		5,200	13,700	TB3M発行▲45,000 償還43,000
1/28 (火) 弊社予想	1,000	▲7,000	▲6,000				0	▲6,000	流動性供給▲6,500
1/29 (水) 弊社予想	1,000	5,000	6,000				0	6,000	
1/30 (木) 弊社予想	2,000	▲5,000	▲3,000	気候変動	▲47,300		▲47,300	▲50,300	GX5Y発行▲3,500 交付税借入▲13,000 期日13,000
1/31 (金) 弊社予想	2,700	6,900	9,600	CP買入		2,000	2,000	11,600	
週 間 合 計	7,500	7,600	15,100	—	▲42,100	2,000	▲40,100	▲25,000	

●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、金融政策決定会合により無担保コールレート（オーバーナイト物）を0.50%程度に誘導することが決定されたことから、レートは0.40%台後半で推移することが予想される。債券レポGC T/N物は、参加者のスタンスに大きな変化がみられなければ、引き続きレートは横這い圏で推移することが予想される。短国市場は、31日(金)に3M物の入札実施が予定されている。CP市場では、予定されている分としては最後のCP等買入オペが28日に、また、29日は月末発行集中日となることから、市場動向が注目される。

主要なイベントは、国内では29日(水)に金融政策決定会合議事要旨(12月18・19日分)、30日(木)に氷見野副総裁の講演、31日(金)に1月の都区部消費者物価指数、12月の完全失業率・有効求人倍率、12月の鉱工業生産・出荷・在庫速報。海外では、27日(月)に12月の米新築一戸建て販売件数、28(火)・29日(水)に米FOMC、30日(木)にECB定例理事会、10-12月期の米GDP速報値、10-12月期のユーロ圏GDP1次速報、31日(金)に12月の米個人所得・消費支出(PCE)などの発表が予定されている。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等を負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。